

令和5年度生徒指導サポート実践校「特別活動の取組事例」

学校名	廿日市市立大野東中学校	校長	谷川 清二	生徒指導主事	大武 稔
取組事例名	『生徒が活躍する教育活動の創造 ～一人一人が主人光となって～』				

1 取組の設定	
取組を実施する意図及びねらい	取組を通して育てたい児童生徒像
生徒たちに考えさせた自校の課題に「人前でなかなか挑戦できない事」が挙げられていた。周りから認められなかったらどうしようという思いをもっている生徒が多くいる現状を改善するために、生徒が活躍できる環境を整えたいと考えた。また、教職員は、ファシリテーターとして生徒が活躍できる場を仕組んでいく。	全教職員が全校生徒の縦割りグループを活用した積極的な生徒指導を通して、相互に認め合う集団作りを行うことにより、自他を認め合う生徒を育てる。 生徒が自ら考え選択・決定する場を設定することを通して、自分自身と向き合い、夢や目標に向かって努力する生徒を育てる。



2 展開	
取組の具体的内容	取組の創意工夫
◎全校生徒と全教職員で行う、異学年交流を活用した集会の実施 ・「命の大切さについて考える取組」（5月） ・「未来の大野東中について考える会」（12月） ・「いじめ防止について考える会」（12月）  ◎行事を盛り上げ、一人一人の思いをつなげる全校生徒が参加する掲示物の作成。  「ピースフラッグ」 「命の星」 「生徒が説明して作成」 ◎普段自分の周りで頑張っている人にスポットを当てて、お互いに認め合う風土の醸成。 ・お昼の放送「主人光スマラジ」 	生徒にめあてをもたせるために 生徒会執行部が主となり、自分事として内容を取り上げ、全校生徒に課題を提示していった。また、教職員も生徒と共に課題について考え、お互いに意見交流を行った。 生徒の意欲を高めるために 挑戦して、自分の考えを出すことの大切さを生徒会スローガンにも含め、執行部が挑戦する姿を見せた。多様な考えを受け入れ、お互いに認め合えるように日々のお昼の放送を活用した。 生徒の頑張りを認め、価値付けるために 生徒の活動や考えを見える化し、行事や集会で考えたことをその日だけにせず、振り返ることができる全校生徒が参加する掲示物を作成した。



3 成果と課題
○様々な場面で活躍している生徒が表に出てこれるようになった。 （生徒への学校生活アンケートで「自分のことは、まわりの人から認められていると思う」の肯定的な回答が、1学期79%から3学期82%に上がった。） ●様々な取組を行う中で、取組の時期や実施するために必要とする時間を考えていく必要がある。